

# 外国為替証拠金取引データに関する解析 個人投資家に着目して

2006MI040 石原暢人

指導教員：尾崎俊治

## 1 はじめに

今日、外国為替証拠金取引 (FX) という言葉をよく耳にする。外国為替証拠金取引を簡単に説明すると、円を売って米ドルやユーロを買うなど、外国通貨を売買する取引のことである。最近では、取引通貨も米ドルやユーロ、英ポンド、豪ドルなど幅広くなっている。そのため、外貨預金感覚で身近な通貨から取引をはじめられることもできる [1]。私は大学の講義で経済学を学び、外国為替証拠金取引に興味を持った。外国為替証拠金取引は浸透しているかどうかを調べるため Zipf's Law の適合性を調べる。ここ数年、レバレッジを高く設定しすぎてロスカット (強制決済) する人数が増えてきた。これをきっかけに証券取引等委員会が外国為替証拠金取引の規制強化に向け、金融庁に 20~30 倍の水準でレバレッジ規制を行う提案をした。このことを受け、レバレッジの規制が 20~30 倍は妥当であるかどうかを調べる。本研究では誰もが買うことのできる外国為替証拠金取引データを用い、最適投信、最適ポートフォリオについて解析、考察を行う。

## 2 外国為替証拠金取引

### 2.1 仕組み

外国為替証拠金取引は、総取引代金の数%程度の少額の証拠金を委託してできる取引である。少ない資金で効率の良い取引を行うことが可能である。

### 3 資本金ランキング

次の表 1 のデータは日本経済新聞やインターネット、雑誌等の FX の関係の情報ではどこでもみることのできるランキングである。今回インターネットより平成 21 年 10 月 5 日の資本金ランキング上位 10 位を示した。

表 1 資本金ランキング上位 10 位 (2009.10.5)[2]

順位	ファンド名	資本金 (百万円)
1	株式会社 SBI 証券	47,937
2	ジャパネット銀行	37,250
3	ジョインベスト証券株式会社	21,400
4	かざか証券株式会社	15,446
5	楽天証券株式会社	7,445
6	カブドットコム証券	7,195
7	岡三オンライン証券株式会社	6,000
8	インヴァスト証券株式会社	5,965
9	フォーランドフォレックス 株式会社	3,030
10	オリックス証券	3,000

### 3.1 Zipf's Law の適合性

Zipf's Law とは、ランキングしたものの順位と順位付けられたデータそのものをかけ、その結果がほぼ一致する法則である [3]。下記の表は資本金ランキングに Zipf's Law を適用したものを示す。

表 2 資本金ランキング上位 20 位 (2009.10.5)[2]

順位	ファンド名	資本金	順位× 資本金
1	株式会社 SBI 証券	47,937	47937
2	ジャパネット銀行	37,250	74500
3	ジョインベスト証券株式会社	21,400	64200
4	かざか証券株式会社	15,446	61784
5	楽天証券株式会社	7,445	37225

20	スター為替株式会社	455	9100
----	-----------	-----	------

上記の表 2 を見てもわかるように順位×資本金の値に近い数字に収まっていることから、資本金ランキングのデータは Zipf's Law に従うことがわかった。

## 4 レバレッジ規制

ここ数年、レバレッジを高く設定しすぎてロスカット (強制決済) する人数が増えてきた。これをきっかけに証券取引等委員会が外国為替証拠金取引の規制強化に向け、金融庁に 20~30 倍の水準でレバレッジ規制を行う提案をした。このことを受け、レバレッジの規制が 20~30 倍は妥当であるかどうかを調べた。

### 4.1 通貨ペア別チャート

ここ 10 年のドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円、(英ポンド/円) のチャートを見てみる。

#### 4.1.1 ドル/円

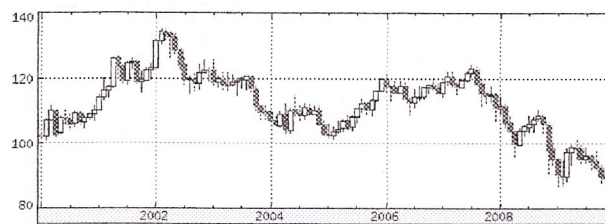


図 1 ドル/円 [4]

図 1 はドル/円のチャート図である。2008 年のリー

マンショック以降、円高になり2008年10月24日では98円から90円と1日で約10円も円高になり、ロスカット(強制終了)になった人が大量に増えた。また、2009年11月にドバイショックにより、さらに円高に進み、一時84円台まで進んだ。

#### 4.1.2 ユーロ/円

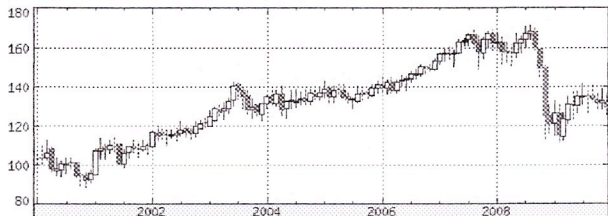


図2 ユーロ/円 [4]

図2はユーロ/円のチャート図である。2008年のリーマンショック以降、円高になり絶えず5円の円高になり、ロスカット(強制決済)になった人が大量に増えた。

### 5 ロスカット

外国為替証拠金取引は大きな利益を発生することもあるが、大きな損失も発生することもある。ロスカットとは、ある一定以上の損失が発生した場合において、保有しているポジションを自動的に決済するルールである。「有効証拠金」がロスカット値を下回った際に、ロスカットが行われる。ロスカットのレベルは業者が決める。

#### 5.1 各通貨の証拠金の残額

次に各通貨の証拠金の残金を調べる。毎日始値で買い、その日の終値で売ると仮定する。今はスプレッドは考えないこととする。2006年4月から2009年の12月まで毎日取引をするものとする。下記の図はレバレッジを500倍にしたときの結果を示す。

##### 5.1.1 ドル/円のとときの残額

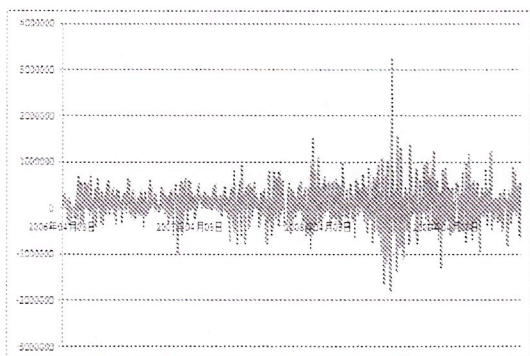


図3 ドル/円のとときの残額

ドル/円の時、レバレッジ500倍の時322回ロスカットになり、約2、3日に1回はロスカットになる計算にな

る。また、数年に一度は急激に円高傾向になったり、円安傾向になったりすることがある。今回は2008年のリーマンショック、2009年のドバイショックなどがあげられる。レバレッジを27倍にしたときドル/円のロスカットは1回も起こらなかった。このことを受け、金融庁がレバレッジを20倍~30倍に規制することに妥当性を感じられる。

#### 5.1.2 レバレッジとロスカットの割合

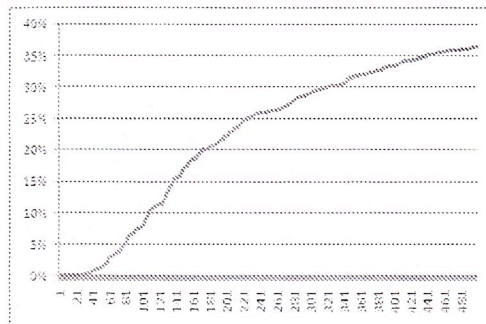


図4 レバレッジとロスカットの割合

金融庁は2010年度にレバレッジの規制を50倍にすることを発表した。また2011年にはレバレッジを25倍に規制することを発表した。

### 6 おわりに

以上より本論文は、外国為替証拠金に対する最適投信について研究してきた。資産が少なく、レバレッジをぎりぎりまで上げたい、という心理でトレードに臨むことがどれほど危険なことかはこれまでに説明してきた。

安定的に増やす資産運用のためのFXに立ち戻れば、自動強制決済のレベルに抵触しそうな取引のスタイルこそが危険である。

どの業者でもマージンコールとロスカットの発動を証拠金維持率の100%以下に設定している。つまり取引額と資産のバランスが100%以下になることが危険であるということになる。

であれば、危険でない取引のあり方とは、維持率100%以上のレベルと考えるべきである。私の個人的な意見では、レートが1~2円動いた程度で維持率100%を割るようなかけ方は危険と考える。

理想を言うなら維持率500%以上くらいは確保しておいたほうがいいであろう。これだけの条件さえ整えれば、心理的にもかなり楽な取引をすることが可能であると結論付けた。

### 参考文献

- [1] 山口佑介:『外為FX(外国為替証拠金取引)勝者の条件』。秀和システム、東京、2007。
- [2] 比較.com, <http://www.hikaku.com/>.
- [3] 中野義之、鈴木佑昂: Zipf's Lawの適合性に関する研究, 南山大学2006年度卒業論文。
- [4] Yahoo!ファイナンス, <http://finance.yahoo.co.jp/>.